

## 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

# 歓迎・新入生(先生方の言葉)(おくり そして むかえる)

著者	香川 良成
雑誌名	日本文学誌要
巻	51
ページ	179-179
発行年	1995-03-24
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00019827">http://hdl.handle.net/10114/00019827</a>

## 先生方の言葉

### 歓迎・新入生

香川 良成

私は二つの大学生活を経験しています。一つはやむなく行くことになった大学ですが、そこで様々な個性（他者）に出会ったことを今も懐かしく思い出します。法政は編入でしたが、これは日本文学科の学風（先生たち）を選択しての編入でした。勿論ここでも良き友人たちにめぐり会えました。

今振り返ってみると、いずれの場合にも、類は友を呼ぶのたとえのごとく、自ら求めるものがあれば、そこにひとつのグループやサークルや集まりが自然と出来上っていったように思います。そこから得た収穫は大きいものでした。

新入生の皆さんは、それぞれに夢や希望を持って入学してきたにちがいありませんが、それを積極的にお互いにつけ合って、グループやサークルや集まりなどの交流の輪をどんどん拡げていくことを期待します。教室での活発な意見の発表もこの輪を拡げます。多くの個性（他者）と出会え、しかも何の気兼ねなく甲論乙駁論議出来るということ、これは学生生活の特権だとつくづく思います。他者の発見は自己の検証・発展にもつながります。

この絶好の機会をどうか最大限に生かして下さい。そうすれば卒業時のあなたたちは、きつと大地にどっかりと腰を据えて突っ立っていることでしょう。新しい時代はあなたたちが創って行くのです。

（文学部講師）

……。あの飄々とした感じが皆にウケている理由なのだろうか。

行き先は、「金沢文庫」という名の博物館である。この時は「兼好と徒然草」展をやっていた。博物館の癖に称名寺という寺の境内の奥にあり、閉鎖的な感じで中々面白い。寺そのものが展示物のものである。有難みは無かった。

一般でも安いが、団体なので更に安く、しかも国文学会の関係から、学芸員の方のガイド付きという、中々オイシイ見学会であった。展示物の中に、美術史の授業で見たばかりの掛軸があり、「おお、こんな所で会えるとは」と旧友に会った様な心持がした。

展示は、絵本が多かった。見ていて楽しい。徒然草は、絵本向きの文章なのかとつくづく感じた。何より昔の絵本はやたらに細かい。これで凸版印刷とは信じられん。現代でも、絵本は文庫本などよりずっと高価だから、当時は屹度相当したに違いない。

一通り見て回ると、先生方はもう既に一服していた。我々が遅いのか、先生方が早いのか、良く分らない。

帰りがけに、飲み会なんだか食事会なんだか良く分らないものをしている内に流れ解散